

広島別院だより

Vol.42
秋号

真宗大谷派（東本願寺）
広島別院教化委員会 発行

秋彼岸会が勤まる

九月二十六日に秋彼岸法座が勤まりました。法話は東白島町円光寺の谷川法海師（山陽教区聞法伝道塾修了生）と呉市得蔵寺の高橋仁誓師です。以下、法話の抄録です。

【谷川法海師法話】

●私を解放する念仏

親鸞聖人の門弟唯円は悩みを抱えていた。かつて念仏申して浄土に往生出来るといふ喜びが満ち溢れていたはずが、次第に喜びが失せ、浄土に参りたいという心も無くなってしまった。その気持ちを親鸞聖人に打ち明けたところ、聖人の言葉は意外なものであった。「唯円よ、お前もそうであったか」と。更に聖人は「本来、喜ぶべきことを喜べないのは煩惱のためである。しかし、その煩惱に苦しむ我らを仏は殊に憐れむのだ。だから我らの往生はすでに定まっているのだ」と語られた。

私たちは「私はこうあるべきだ」「世間はこうあるべきだ」と自我に縛られている。念仏の教えは自分で自分を縛り苦しむ私たちを解放するのである。

【高橋仁誓師法話】

●念仏申す「我が身に聞く」

浄土真宗は「聞く」ということを大切にしています。それは単に教えを聞くというだけでなく「我



谷川法海 師

が身」に聞くということである。この身を通して出てくる念仏は内から聞こえてくる仏の声であり、耳を塞ぐことも誤魔化すことも出来ない声なのである。それを「聞名」と言う。

●何のために生まれてきたのか？

人には避けて通れぬ「生老病死」の四苦がある。「生苦とは何のために生まれて来たのか？ 分からないことだ」と教えられ、ハッとしたことがある。寺に生まれた私は父が存命中、反抗心から「誰も寺に生まれないと思っとらん！」と言ったことがある。その言葉が今も爪痕のように心に残っている。父の死後、黙って聞いてくれていた親がいたことに気づかされる。今思えば、何のために生まれてきたのか分からないという苦悩が言わせたのかもしれない。

●私の願い

仲野良俊師の言葉である。

「仏はこう教えられる。お前の心をもっと深く見てみよ。確かに損が嫌いで得が好き、苦勞が嫌いで樂が欲しい、それしかないだろう。しかしその心のもう一つ奥に、自分でも気づかない深い所に、本当に意味のある事なら少々損しても良い、本当にやり甲斐のある事なら苦勞も構わぬ、そういう心があるに違いない。それがお前の本当の願いである。それが見つからぬために苦樂や損得に走り回っているのではないかと」

●阿彌陀仏の願い

人には生まれながらの深い願いがある。その願いとは、「誰にも代わってもらわなくても、誰と比

べる必要もない、私が私であって良かった」という人生を生きたいという願いである。仏は私の中に深い願いがあることを私に先立って見抜き、その願いに気づくことを願っておられる。その仏の願いが「南無阿彌陀仏」となって私の口から出てくださるのだ。思えばこの彼岸法座という場があるのも、先人たちが仏の願いに自己の本当の願いを聞き取ってきた歴史があるからだ。その歴史を今私たちも歩ませて頂いているのではないだろうか。



高橋仁誓 師

子ども食堂やっています

現在、広島別院を会場に毎月、子ども食堂が開かれています。加藤代表（門徒有志）を中心に安芸南組の有志スタッフが参加し、毎月一回開催し、五名十名の近隣の子供たちが来場してくれています。



広島別院団体参拝

お参り頂き誠に有難うございました。

十月三日 四国教区東讃第一組

親鸞聖人の生涯を辿る

教団批判

法然の説く専修念仏の教えは民衆に広まり、多くの門弟が教えに帰依しました。一方教団が拡大する中で、法然の教えとは違う主張をしたり、先鋭化したりする者も出てきました。念仏によってどんな人も救われるのだからどんなことをしてもいい、という造悪無碍の考え方や、専修念仏の教えこそが救われる道であり、他宗の教えは雑行で無意味であるとして、既存仏教の教えや修行を批判するものが出たりしました。

比叡山延暦寺は法然教団に対して抗議をしていましたが、一二〇四年(元久元年)には専修念仏停止を訴える決議を行いました。これに対して、法然は七箇条制誡を作成して禁止事項を定めて、弟子に署名をさせて守らせるようにしました。しかし弟子の中には却って放言をしたり、諸宗批判を煽ったりするものも出てきました。そこでさらに一二〇五年(元久二年)にはいわゆる興福寺奏状が朝廷に提出され、法然の教えに理解を示していた朝廷は、既存仏教との板挟みで苦しむことになりました。

法座・講座等のお知らせ

12月6日(水)・7日(木)報恩講

【講師】 勝間 海 先生(笠岡市 光明坊)
寺川大雅 先生(庄原市 西願寺)

【日程】 6日(水) 14:00～勤行と法話 16:30～御伝鈔拝読
7日(木) 8:00～勤行と法話 10:00～勤行と法話

親鸞聖人のご祥月令日を縁としてお勤まりになる浄土真宗で最も大切な法要です。
お誘いあわせの上、お参りください。

12月23日(土)仏教入門講座

【講師】 眞城義麿 先生(ましろよしまる) 【次回2月3日(土)】

【日程】 毎回 13:30～16:00 【会費】 500 円

〈日常生活の様々な疑問を仏教に学ぶ講座です。ぜひご参加ください。〉



毎月5日 定例法話(ご今日の集い)

【講師】 県内僧侶(月替わり) 【日程】 14:00～勤行と法話(15:00 終了予定)

〈広島別院開基 教如上人の御命日(毎月5日)に法話会があります。〉 ※1月は休みです。

道場樹

【編集室より】

なぜか夏バテしない？

今夏は記録的な猛暑だった。とは言え、毎年記録が更新されているので、国連事務総長の言う通り、既に地球温暖化は終わり、地球沸騰の時代に入っているのだろう。

ところが個人的には近年、夏バテをしない。なぜだろうか。お参りする御宅の仏間にもエアコンが備えられているからだ。三十年近く前に広島に参り始めた頃は、必ず盆過ぎに夏バテしていた。当時は普段生活しない仏間にエアコンが無いは当たり前で、汗だくなっている間にエアコンがなかった。今やエアコンのある家が増えたおかげで夏バテすることも無くなったのだろう。

自宅に帰って家の中を見回すと、過去三十年の間にどれほどの電化製品が増えたことか。エアコン、テレビ、パソコン、携帯電話…。夏バテを引き換えに今日も地球を沸騰させている私は、生活習慣だろうか、なぜか常に何かのリモコンを手にはしているのだ。

(H・N)

真宗大谷派(東本願寺)

広島別院 明信院

〒730-0044 広島市中区宝町 4-16

TEL 082-241-5342 (電話・FAX 共通)

東本願寺 広島別院

検索

